



100日間咲き続けるツツジ新品種を開発しました

～地域の植物園や生産者における試験栽培も開始～

令和7年4月18日

国立大学法人 島根大学生物資源科学部

- ◆ 島根大学生物資源科学部では、花色変化を伴い約100日間にわたり開花が持続するツツジ新品種を開発しました。
- ◆ ツツジは4月5月の街を紫、赤、白、ピンクに彩る、春を代表する花木で、わが国の野生ツツジをもとに江戸時代から発達してきた日本原産の園芸植物です。
- ◆ 江戸時代のツツジ品種の中には、花色変化を伴い長期間にわたり開花が持続する「見染性；みそめしよう」と呼ばれる形質があります。島根大学では近年のツツジの品種改良では未利用の花器形質「見染性」に着目し、形態的分析や原因遺伝子解析等の研究を進めると同時に、見染性古典品種を品種改良する育種プログラムを20年来実施してきました。
- ◆ 新品種開発の結果、長期間開花する見染性形質に二期咲き等の魅力的な形質をあわせ持つツツジ新品種を育成することが出来ました。
- ◆ 島根大学発のツツジ新品種として現在3品種を種苗登録申請中です。(2023年2品種：島大K1, K3、2024年1品種：島大K2)
- ◆ これらの新品種系統は、県内外の花木生産者や種苗会社等の生産・販売意向を受けて、2023年から試験栽培を実施中です。これから試験栽培等を希望される生産者や植物園は下記の問合せ先までご相談下さい。
- ◆ しまね花の郷（出雲市西新町）およびとっとり花回廊（鳥取県南部町）では見本園を開設していただきました。今年の4月下旬から6月上旬程度までは新品種の花色変化を伴う開花を鑑賞できます。
- ◆ 近年の地球温暖化により、従来ゴールデンウイークの公園を彩っていたツツジは早期に開花し4月中に花が終わる問題があります。一方、「見染性」新品種では、気象条件に左右されず4月の開花後に花色変化しながら6月の高温期まで花が持続します。
- ◆ 従来のツツジ品種を刷新する鑑賞利用性の高いツツジ新品種は、減退する日本の花き産業振興に寄与できると同時に、海外への普及も期待されます。
- ◆ 新品種育成の研究成果は、園芸学会のほか、2024年4月に島根大学園芸グループ主催で松江にて開催された国際花木シンポジウムで発表されました。

(問い合わせ先)

<報道に関して> 島根大学 企画広報課 TEL : 0852-32-6603

<研究に関して> 島根大学 生物資源科学部 農林生産学科
教授 小林伸雄 (こばやしのぶお) TEL : 0852-32-6506

1. 背景

ツツジやシャクナゲ、サツキとして親しまれるツツジ科ツツジ属(*Rhododendron*)の植物は、北半球に広く分布し、日本にも約 50 種が自生しています。これらの野生のツツジをもとに、江戸時代から多様な園芸品種が作出されて国内外で利用されてきました。高温、排気ガスなどの厳しい環境にも耐えて美しい花を咲かせるツツジは、公共植栽に利用される最も身近な花木の一つです。また、日本のツツジをもとにヨーロッパで改良されたアザレア（ベルジアン・ポットアザレア）は欧米ではシクラメンと並ぶ冬の人気の鉢花です。

江戸時代の園芸ブームではわが国では独自の伝統園芸文化のもと、ツツジをはじめとする様々な植物が全国各地から集められ、多様な園芸品種が発達しました。元禄五年（1692 年）に出版されたツツジ専門書『錦繡枕』（1692 年）には、ツツジ 174 品種、サツキ 163 品種が掲載されています。この中のツツジ古典品種の一部が保有する「見染性：みそめしよう」は、花色変化しながら、開花が 100 日程度持続する花冠のガク化変異形質です。明治以降のツツジ新品種育成において未利用の花器形質「見染性」に着目し、形態特性と遺伝性の解析、原因遺伝子の解明と選抜用 DNA マーカー開発の研究を進めると同時に、見染性品種を育種親として、新たな特性付与を目的とした育種プログラムを 20 年来実施してきました。

2. 研究成果の概要と普及

- ① 100 日前後の長期間開花する見染性形質と同時に、さらに二期咲き等の魅力的な形質を有する新品種候補系統を選抜することが出来ました。
- ② 新品種については、県内外の花木生産者・企業・植物園等の生産・販売・展示意向を受けて、試験栽培を実施中です。今後は生産販売を拡大し、社会普及を進める予定です。
- ③ しまね花の郷（出雲市西新町）およびとっとり花回廊（鳥取県南部町）では昨年見本園を開設していただき、今年の 4 月下旬から少なくとも 6 月上旬程度まで新品種の花色変化を伴う開花を鑑賞できます。

3. 将来の波及効果

- ① 地球温暖化により公園のツツジも早期開花し花が終了する一方、新品種は気象条件に左右されずに 4 月中下旬の開花後に花色変化を楽しみながら 6 月まで花が持続します。鉢花利用においても長期開花する鑑賞利用性が高い品種として高評価が得られています。
- ② 従来のツツジ品種の特性を刷新する新品種は、減退する日本の花き産業振興に寄与できると同時に、海外へも日本原産のツツジ新品種を普及することが期待されます。

関連学会発表・論文の一部

学会発表：ツツジ属植物の遺伝資源の活用に関する研究（第 48 報）見染性を有する常緑性ツツジ交配育成系統の各種特性。発表者：河相海・小林伸雄ほか。

発表学会：2021 年 3 月 27-28 日。園芸学会令和 3 年度春季大会、園学研 20 別 1

国際学会発表・論文：New azalea cultivars with long-lasting flower trait based on Japanese traditional Misome-shō azalea. 著者：Nobuo Kobayashi, Tetsuya Kako, Yu Gobara, Akira Nakatsuka

掲載誌：ActaHorticulturae. 発表学会：The 5th International Symposium on Woody Ornamentals of the Temperate Zone, 2024 年 4 月 21-25 日

